

和歌山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	教科名	環境アセスメント		
科目基礎情報							
科目番号	0013		科目区分	専門 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	メカトロニクス工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	授業ごとに説明資料と演習用データを配布する。						
担当教員	鶴巻 峰夫						
到達目標							
①環境アセスメントの社会的必要性と対応した制度について説明できる (A) ②環境アセスメントのスクーピングの方法が説明できる (A) ③環境アセスメントの主要な環境影響要因, 環境要素での予測, 評価, 環境保全措置の検討を行うことができる (A) ④環境アセスメント図書の作成手順と内容を理解する (A)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
環境アセスメント制度	必要性と制度の枠組みを理解して、説明できる。		必要性と制度の枠組みを理解できる。		必要性と制度の枠組みを理解できない。		
調査・予測・評価技術	主要な環境要素の調査・予測・評価技術を理解して予測計算ができる。		主要な環境要素の調査・予測・評価技術を理解できる。		主要な環境要素の調査・予測・評価技術を理解できない。		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
JABEE A							
教育方法等							
概要	環境アセスメントの社会的必要性と制度を理解した上で、ケーススタディで環境アセスメントの実践的技術とコミュニケーションツールとしての環境アセスメント図書の作成方法を理解する。						
授業の進め方と授業内容・方法	事業の事例を示して、その事業に対するケーススタディを行う演習方式で授業を行う。						
注意点							
授業計画							
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標			
後期	1週	オリエンテーション. 環境アセスメントの社会的必要性		環境アセスメントの社会的必要性を理解できる。			
	2週	環境アセスメントの制度 と作成図書, コミュニケーション		環境アセスメントの制度 と作成図書, コミュニケーションを理解できる。			
	3週	環境アセスメントの対象環境要素と調査・予測・評価の枠組み		環境アセスメントの対象環境要素と調査・予測・評価の枠組みが理解できる。			
	4週	ケーススタディ(1): 対象事業の設定		与えられた対象事業の内容を把握できる。			
	5週	ケーススタディ(2): 環境影響要因, 環境要素の整理		対象事業における環境影響要因, 環境要素を抽出できる。			
	6週	調査・予測・評価手法(1): 大気汚染		大気汚染の調査・予測・評価手法を理解できる。			
	7週	ケーススタディ(3): 大気汚染の現状調査 (文献調査)		文献による大気汚染の現状調査ができる。			
	8週	ケーススタディ(4): 大気汚染の環境保全措置と予測・評価		大気汚染の簡易的な予測と、その結果にもとづく評価ができる。			
	9週	調査・予測・評価手法(2): 水質汚濁		水質汚濁の調査・予測・評価手法を理解できる。			
	10週	ケーススタディ(5): 水質汚濁の現状調査 (文献調査)		文献による水質汚濁の現状調査ができる。			
	11週	ケーススタディ(6): 水質汚濁の環境保全措置と予測・評価		水質汚濁の簡易的な予測と、その結果にもとづく評価ができる。			
	12週	調査・予測・評価手法(3): 動物・植物		動物・植物の調査・予測・評価手法を理解できる。			
	13週	ケーススタディ(5): 動物・植物の現状調査 (文献調査)		文献による動物・植物の現状調査ができる。			
	14週	ケーススタディ(6): 動物・植物の環境保全措置と予測・評価		動物・植物の簡易的な予測と、その結果にもとづく評価ができる。			
	15週	環境アセスメント図書の作成		環境アセスメント図書の作成ができる。			
	16週						
評価割合							
	最終レポート	途中の提出物	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	60	0	0	0	0	100
配点	40	60	0	0	0	0	100